



20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番号 ばんごう	上の句 かみ	下の句 しも	作者 さくしや
わびぬればいまはたおなじにななる わびぬれば今はた同じ難波なる	難波瀉短き蘆のふしの間も なにわがたみじかきあしのふしのまも	住の江の岸に寄る波よるさへや すみのえのきしによるなみよるさえや	ちはやぶるかみよもきかずたつたがわ ちはやぶる神代も聞かず竜田川	立ち別れいなばの山の峰に生ふる たちわかれないなばのやまのみねにおうる	君がため春の野に出でて若菜つむ きみがためはるののいいでてわかまつむ	陸奥のしのぶもぢずり誰ゆるゑに みちのくのしのぶもぢずりたれゆるゑに	筑波嶺のみねより落つるみなのがわ つくばねのみねよりおつるみなのがわ	天つ風雲の通ひ路吹き閉ぢよ あまつかぜくものかよいじふきとじよ	わたのはらやそしまかけてこぎいでぬと わたの原八十島かけて漕ぎ出でぬと	ばんごう	上の句 かみ	下の句 しも	作者 さくしや
みをつくしても逢はむとぞ思ふ	逢はでこの世を過ぐしてよとや あわでこのよをすぐしてよとや	夢の通ひ路人目よくらむ ゆめのかよいじひとめよくらむ	からくれなゐに水くくるとは ゆめのかよいじひとめよくらむ	まつとしきかばいまかえりこん まつとしきかばいまかえりこん	わが衣手に雪は降りつつ わがころもでにゆきはふりつつ	乱れそめにし我ならなくに みだれそめにしわれならなくに	恋ぞつもりて淵となりぬる こいぞつもりてふちとなりぬる	乙女の姿しばしとどめむ おとめのすがたしばしとどめむ	人には告げよあまのつり舟 ひとにはつげよあまのつりぶね	ばんごう	上の句 かみ	下の句 しも	作者 さくしや
元良親王 もとよししんのう	伊勢 いせ	藤原敏行朝臣 ふじわらのとしゆきあそん	在原業平朝臣 ありわらのなりひらあそん	中納言行平 ちゅうなごんゆきひら	光孝天皇 こうこうてんのう	河原左大臣 かわらのさだいじん	陽成院 ようぜいのいん	僧正遍照 そうじょうへんじょう	参議篁 さんぎたかむら	ばんごう	上の句 かみ	下の句 しも	作者 さくしや